

研修報告書 No 39

私は平成 25 年 1 月 7 日から 2 月 3 日まで高知医療再生機構の皆様の御尽力により、〇〇病院で地域医療研修に参加させていただきました。私は、これまで高知県はおろか四国にすら一度も行った経験が無く、とても暖かい気候のもとに研修を行えるのではないかと想像していました。しかし、私の研修先は県内北部の山間部でとても寒いところでした。そんな厳寒のもとに私の地域医療研修は開始しました。

普段は神奈川県横浜市の大学病院で研修しており、大学病院以外での研修は今回が初めてとなりました。使い慣れた電子カルテやエアーシューターもなく、カルテはおろか検査オーダーもすべて手書きでした。限られた医療資源の中、検査は最低限の範囲として、処置もいかに無駄を出さずに行えるかを重視するような場所でした。しかし、このような病院は全国でも数限られており、また、医療がコンピューターのもとに発達してきた事も極最近であることを考えると、今の状態の方が標準的な医療であり、自分たちの環境がいかに恵まれえているのかを痛感させられました。

<高知県の地域医療の現状>

今回の研修では普段は嶺北中央病院での研修を基本として、日によって△△診療所、〇〇診療所、■〇診療所等へ研修に派遣させていただきました。基本的にはどの患者様も 70 歳以上と高齢であり、定期的に外来通院をされている方ばかりでした。基本的な問診をして、血圧、脈拍の測定を行い、聴診をして診察が終了するといった流れでした。その中で感じたことは、長期にみていく中で患者様との信頼関係をいかにして築いていくか、患者様の背景にある社会的因子をいかに理解してあげられるかがより良い医師患者関係に繋がるであろうということでした。

一度だけでしたが、入院している患者様の容体が悪化し（陣後性腎不全）、救急車に同乗して、高度医療を受けられる病院への転送に付いて行ったことがありました。私はそれまで緊急状態の患者様とともに救急車に同乗しての転院というものを経験したことがなかったため、上級医の先生と二人で同乗する形となりました。病院から救急車で 40 分掛けて南国市内にある病院へ転送されました。高速道路は、高知自動車道は高値 IC から東側は 2 車線ですが、西側の須崎方面へは 1 車線であることを後に知りました。今回使用した道路は 2 車線区間でしたが、もしも 1 車線の高速道路であった場合、患者の転送に大幅な時間のロスが生じてしまうことが考えられました。このことから、医療の発展には道路交通網の発展などの社会的な側面も、とても大事であることを痛感いたしました。

<研修内容に対する意見>

この一か月間の研修内容はとても充実していました。欲を言えば、将来の専門領域が研修前に整形外科と決まっていたので、他科の外来診療の整形外科を見せていただける時間をもう少し割り当てていただけたら、なお一層よかったかもしれません。

<臨床研修から得られたこと>

また、前述いたしました私は研修終了後に整形外科を専門として医療に従事して進むので、内科的な側面、しかも大学病院ではなく地域の病院における内科医としての基本的な部分を学ばせていただきことに感謝しております。

最後になりましたが、今回の地域医療研修でお世話になった〇〇病院の先生方、及び病院スタッフの皆様、また、各診療所の皆様、高知医療再生機構の皆様に厚く御礼もうあげたいと思います。1ヵ月間という短い期間でしたが、大変お世話になりました。横浜の病院へ戻り、その後専門の科へ入局した後も今回の研修であることができたことを大切にしながら日々の診療に従事していきたいと思っています。